

高校英語において英文読解力を高める指導の工夫

—生徒による内容に関する疑問文づくりとその応答を通して—

外国語班 茂木 健太郎（高等学校教諭）

生徒の現状

教科書での学習への取組が作業的で、英文の理解が表面的なものにとどまっている

その原因は？

- 英文の論理的なつながりや展開を推測・把握しながら読む活動が不十分である
- 英文の内容に対して客観的・批判的な視点から考える方法の提示が不十分である

目指す生徒像

論理的・批判的に思考しながら、英文の内容をしっかりと読解できる生徒

解決の手だてと結果

STEP1 内容理解のための基本的な疑問文づくりで、英文の表面的な理解から内容的な理解をさせる

単元の各パート終了後、ワークシートに、内容に関する「when」、「where」、「who」、「what」等を用いた疑問文を1つ以上作成した。

【生徒の感想】

「今までよりも文章を読む回数も増えたとし、深く考えるようになった」
「普段あまり具体的にいつ、どこで、何をした等を考えたことがなかったのでよかった」
☆教科書を繰り返し読むようになり、クラスの疑問文の作成数も128個から297個に増えた。

STEP2 論理的なつながりや展開を問う疑問文づくりを通して、英文を論理的に理解させる

各パート、複数パートあるいは1レッスン全体終了後、「why」、「how」、を用いた疑問文を1つ以上作成した。
複数パートにまたがったりレッスン全体の内容に関する疑問文も作成可能。

【生徒の感想】

「疑問文を作るためには、教科書の内容を自分なりに理解していなければならないので、そのぶん理解が深まったのでよかったです」
☆生徒の作成した疑問文
“Why was he 11th of 11 in his class?
— Because he didn't treat his work seriously.”

STEP3 作成した疑問文でのQ&A活動で、新たな視点や批判的思考を獲得し英文読解力を高める

レッスン終了後、今まで書きためてきた疑問文を用いて6人1組のグループでQ&A活動を行った。
活動の際に、「自分ならこう考える」という主体的、批判的視点ももつ。

【生徒の感想】

「友達の発表を通して、自分が気付かなかったことに気付いて、本文がより理解できました。なるほどと思うような新しい発見がたくさんありました」
☆事後アンケートで、35名中32名が「英文読解力が高まったと思う」と回答した。

成果

- ☆ 本文に関する疑問文をつくることは、客観的・批判的な読解することに有効であった。
- ☆ 回を追うごとに生徒たちの活動が活発になっていき、より深い英文読解ができるようになった。

課題

- ☆ 補助的な方法であるため、従来の授業にどのように取り入れるかを考える必要がある。
- ☆ 疑問文を作ることに難しさを感じている生徒への支援を工夫する必要がある。

